2019 年度 小委員会活動成果報告

（2020 年 2 月 7 日作成）

小委員会名	環境行動研究小委員会	**主 査 名**：橘　弘志 **就任年月**：2016 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	建築計画委員会（計画基礎運営委員会）	**委員長名**：広田　直行 **主 査 名**：山田　哲弥
設　置　期　間	2016 年 4 月　　～　　2020 年 3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	・環境行動研究的視点から，実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに，人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。 ・環境行動研究に関する研究会の開催 ・居場所づくり・利用・維持・管理の方法論に関する検討 ・北欧の環境・デザインから環境行動研究の理念と実践とを融合する知見の導出 ・文献・情報源の整理とデータベース作成 （活動計画） **初年度**：新規活動方針の検討、公開研究会の開催、「まちの居場所研究 WG」「北欧における環境デザイン WG」の立ち上げ。「まちの居場所を巡る論考」出版に向けて編集・執筆作業。国内先進事例や課外の社会システム検討を視野に入れた研究会・見学会を開催。 **２年度**：「まちの居場所を巡る論考」出版を受けて、国内シンポジウムを開催。国内先進事例や課外の社会システム検討を視野に入れた研究会・見学会を開催。「環境行動研究」全般にわたる資料収集と概念整理を行う。 **３年度**：前年に引き続き、国内先進事例や課外の社会システム検討を視野に入れた研究会・見学会を開催。「環境行動研究」全般にわたる資料収集と概念整理を行う。 **４年度**：前年に引き続き、国内先進事例や課外の社会システム検討を視野に入れた研究会・見学会を開催。「環境行動研究」全般にわたる資料収集と概念整理を行う。報告書、HP 等による環境行動研究の情報発信。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：3 名	
	主査：橘弘志（実践女子大学） 幹事：岩佐明彦（法政大学）、水村容子（東洋大学） 委員：林田大作（大阪工業大学）、諫川輝之（東京都市大学）、伊藤俊介（東京電機大学）、大野隆造（東京工業大学）、垣野義典（東京理科大学）、小林健治（摂南大学）、鈴木毅（近畿大学）、田中康裕（ハネウェル居場所ハウス）、 西田徹（武庫川女子大学）、前田薫子（東京大学）、松原茂樹（大阪大学）、 山田あすか（東京電機大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	「まちの居場所」研究 WG ・様々な「まちの居場所」における人間と環境の関係を捉える方法と理論の錬成 ・居場所環境の計画・デザイン・利用・維持・管理のための実践的な知見の抽出 北欧における環境デザイン WG ・北欧の環境デザインを対象に、環境と社会システムを包括的に捉え、環境行動研究の実践的・理念的知見を抽出するとともに、その成果を情報発信する	
2019 年度予算	135,000　円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/

項　　目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	「まちの居場所　ささえる／まもる／そだてる／つなぐ」鹿島出版会（2019 年 9 月刊行）

講習会	１．フィンランドの社会保障制度と在宅高齢者介護の実態報告（2019 年 6 月 20 日）　参加者数　30　名 ２．連続フォーラム「まちの居場所」の現在 vol.1　「放課後」という時間を考える ３．連続フォーラム「まちの居場所」の現在 vol.2　モノ・コトがヒトをつなぐ
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	公開研究会「環境行動研究から見た近年の「まちの居場所」　計画研究者・社会学者・建築家のクロストーク」（2020 年 3 月 7 日）
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１.「まちの居場所」研究 WG が中心となり、2019 年 9 月に書籍「まちの居場所ささえる／まもる／そだてる／つなぐ」（鹿島出版会）を刊行することができた。 2. その出版を受け、12 月に連続フォーラム「「まちの居場所の現在」vo.1、vol.2 を、それぞれみちくさくらす（東京都新宿区）、近畿大学アカデミックシアター（大阪府大阪市）でワークショップ形式で開催した。さらに公開研究会として 3 月に、公開研究会「環境行動研究から見た近年の「まちの居場所」　計画研究者・社会学者・建築家のクロストーク」を建築会館にて開催予定。「まちの居場所」を巡る他分野の研究者、建築の実践者との議論を行う。 3. 北欧の環境デザイン WG が中心となり、2019 年 6 月 20 日に拡大研究会「フィンランドの社会保障制度と在宅高齢者介護の実態報告」を開催し、フィンランドでラヒホイタヤの資格をもつテーリカンガス里佳氏による講演会を行った。 なお、10 月にはオランダから住宅政策の研究員を招いての公開研究会「オランダ及び日本の団地再生の現状と方向性」を行う予定であったが、台風直撃による交通規制の影響で、中止とせざるを得なかった。
委員会活動の問題点・課題	１．今年度は書籍の出版という大きな成果を得ることができたが、次の展開に向けて委員が集まって議論する機会を十分とることが難しかった。あらためて環境行動研究の理念的･実践的な理論構築に向けて、議論の時間を十分にとれるよう、活発な活動を進めていく必要がある。 ２．次年度は、主査・幹事が交代し、委員構成も大きく変わるため、新体制での活発な活動が期待される。